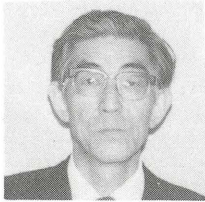




西南学院大学・

図書館報

読書の秋特集	2~4
藤本滋之・後藤新治・武末祐子 中島重昭・西脇應美・清水 直	
データベース/NACSIS-IR	5
レファレンスブックの紹介	6
新着図書紹介	7
図書館増改築	8



新館長就任に当たって

図書館長 門田見 昌明

増築・改装の設計図が出来上がり、工事が始まろうとしている時に、館長を引き受けることになり、鉄骨の骨組みを眺めながら、2度の台風と比較的大きな地震に襲われ、戸惑いがちに不安と期待が複雑に交錯しているのが今の率直な心境です。

日本図書館協会の前身、日本文庫協会が創立されたのが1892（明治25）年3月で、来年その100周年を迎えることになっているという記事を、最近の新聞で見ました。ここ10年で公立図書館は大幅に増加し、貸出冊数も2倍に増えて現在では、1年間の貸出冊数は2億6千万冊にもものぼるとわれています（日本図書館協会調べ）。思想・言論・読書の自由が厳しく統制されていた時代に、少年期・青年期を送った僕らの世代にとって、現在のあふれるばかりの図書・情報の量は、驚異というほかありません。

かつて書物は限られた一部特権層のための象牙の塔に秘められた高貴な存在でありました。しかし今や、活字メディアの時代から急激に電波メディア・映像メディアの時代に突入しようとしており、『書物』以外の情報、『書物』の形をしていない書物（のようなもの）が大量に登場してきました。

戦時中の統制から解放され、出版・読書の自由が認められて、やっと岩波文庫が一冊売り出されるという日の朝、本屋さんのドアの前に早くから列を作って並んだことが懐かしく思い出されます。ないと欲しくなるが、あり過ぎてうんざりという時代になったのでしょうか。

かつて日本の国立・公立学校の校舎は、財政

上の事情からも低廉な規格型が多く、一流の設計技師は敬遠していたといわれてきました。私学は、若干事情を異にして個性的な校舎を持っていたようですが、最近では機能の面でも外観・形式の面でも、最新・最良を求めるようになってきたようです。

今、わが西南でも増改築に当たり、建築工学・人間工学の粋を凝らした外装・内装・調度品の数々について議論をしています。議論百出で楽しくもあり悩ましくもあるというところです。こんな話をしながらも、来年夏には完成させ9月からオープンさせる予定ですので、ひとつずつケリをつけていくほかありません。今後多様な視聴覚情報とそのための装置が増大していくことは必至ですが、限られた『予算』と『空間』の中で何を優先させ、何を価値あるものとして選択するのか、このことが最も大きな課題であることは間違いないと思われます。

今の図書館ができて20年あまり経過していますが、今後20年、30年位はもてる空間があるという見通しです。外観の豪華さ美しさも満たしたい、ゆとりの空間も欲しい、使い勝手もよくなければならないという先輩館長・図書委員や学内世論を、欲深く実現しようとしています。しかし何といても図書館は多くの教職員・学生に利用され、親しまれてこそ存在意義があるといわねばなりません。全学の皆さんのものとして、さらには市民にも開かれた情報センターとして、育てていきたいものと念願致します。

（文学部教授）

● ● ● ● 読書の秋特集 ● ● ● ●

三つの読書

文学部助教授 藤 本 滋 之

私は本は本質的に嫌いである。読んだ量もこういう仕事の割には少ない部類に入と思う。この目まぐるしく情報の氾濫する現代社会にあって、そうそうのんびり本ばかり読んではいけない。単に一般的情報を入手するだけなら、新鮮さといい、映像や音声を伴う楽しさといい、テレビやラジオのほうが効率が良い。ニュース番組の特集ものなど、けっこう現代社会の問題を考える機会を与えてくれる。本には本の使命があり、我々は、本でなければすまされない類のものを選択してかかる必要があろう。数多ある書物を手当たり次第に読んで切りがない。

大学生にとって直接必要な読書は次の三つに分類できよう。一つは、自分の専攻予定の分野で、どのようなことを追求して行くのか、問題意識を啓発してくれるような読書である。先行研究の成果と問題点を概観したような文献がこれに含まれる。もう一つは、各専攻分野における研究書・論文を読むことである。これも数限りない場合が多いので、最新のものから読むのが効率が良い。当該分野の先行研究は、それに値するほどのものであれば概括されているのが通例だからである。そして最後に、自分の抱える問題を追求していく方法を伝授してくれるような書物がある。たとえば、外国語を専攻する人にとっては、どういう辞書をどういうときに利用したらよいかといった趣旨のものがこの部類に入り、意外に多い。最初の本格的な英語辞典の編纂者であるジョンソン博士の言う第二の知識、つまり、ある主題についての情報がどこにあるということに関わる知識は、人の一生の中では大学で学ぶ比重の高いものと言えよう。

(英文法・英作文)

《ラオコオン》とは何か

文学部助教授 後 藤 新 治

本を読むことと、絵を見ることはどこか似ています。一方は言葉により、他方は形により、ここにはないものをあたかもあるかのように思わせるからです。古代ギリシアの詩人も「絵は無声の詩、詩は有声の絵」という巧みな表現で、この両者の類似性を指摘しています。以来、西欧では伝統的に、言語芸術としての文学は、視覚芸術としての美術と優劣が競われ、比較されてきました。しかしそれらはあくまでも「姉妹芸術」として、共通点の方に力点が置かれたものでした。

これに異議を唱え、むしろ双方の本質的な違いの方に目を向けたのが、18世紀のドイツの文学者G. E. レッシングの『ラオコオン—絵画と文学との限界について』（斎藤栄治訳、岩波文庫）です。彼の試みた2つのジャンルの区別はきわめて明快なものでした。時間芸術としての文学と、空間芸術としての美術。詩は、時間の中で展開する継起的な一連の行為を描写するのに適しているが、絵画（彫刻）は、空間的に同時に存在する、「唯一の瞬間」あるいは「最も含蓄のある瞬間」が選ばねばならないというのです。レッシングはこの両者の比較を、16世紀初頭に発見された古代ギリシアの彫刻《ラオコオン》をもとに行いました。

もっとも今日では、空間芸術とされてきた美術のなかに、内在する時間的要素を積極的に認めようという立場や、また美術および文学の作品を一種のテキストとみなし、記号論的にその構造を捉え、解説しようといった新たな試みがなされています。だがまず読むべきはこの『ラオコオン』だと思います。

(西洋美術史)

● ● ● ● ● 読書の秋特集 ● ● ● ● ●

一冊の本

文学部助教授 武 末 祐 子

ヨーロッパ、フランスの各地を旅行していると、駅で列車の構内アナウンスがない、発車のベルがならない、乗り換え線の車内放送がない、またバスに乗っても停車駅案内のカセットテープなどなく、降りたい時にボタンを押しても点灯するが音は鳴らず、喫茶店に入っても音楽はないことなどに気づくはずである。日本人旅行者なら静かというより却って不安になるかもしれない。私はフランスで車を運転していたが、よほどのことがない限りみんなクラクションを鳴らさない。

日本の室内では間断なくBGMが流れ、切れたと思ったら場内アナウンスが始まる。そば屋に入ったら食器を洗う音とそばをすする音の合間に給仕人のかけ声が威勢よく飛んでいる。外に出ると工事現場から聞こえる地響き。それでも物足りない人はウォークマンをしている。これだけの騒音をもものともせず生活している我々の音に対する感性とヨーロッパの人々のそれとは根本的に異なるに違いない。

最近、『音の文化誌』—東西比較文化考—(佐野清彦)を読んで、そんなことを思いめぐらした。ヨーロッパの音響文化はギリシャ神アポロンに象徴されるように、雑音を嫌い、楽音を中心とした歴史を歩んできたが、日本の場合は、鈴の音や尺八、太鼓、またはお囃しの入った民謡などに代表される、雑音、楽音渾然一体となった音響文化を営んできたというのである。

一冊の本が知識を与え、身近な発見をさせ、更に想像力をかきたてる。無尽蔵の宝庫である。

(フランス文学)



読書雑感

施設課 中 島 重 昭

私は月に何回か図書館に足を運び本を借りては読書を続けています。特にどの分野ということなしに小説、エッセイ、自然科学、歴史、等割合幅広く読んでいるつもりであります。

今度読書体験を通じて学生にぜひ勧めたいと思われる図書について書け、との編集部からの依頼がありました。残念ながらこれといった一冊を勧めるような見識を持ち合せていないというのが本音であります。この様に、ただ好奇心旺盛、読書が好きで昼休みに図書館に通い、暇があれば書店にいったは欲しい本を少しずつ買いつめていくというのが現状です。

もともと私の仕事は電気設備管理部門です。現在の様な情報社会では、周知の如く電気は一瞬たりとも停止したら社会生活にはかり知れない影響を及ぼし、また、日常生活にも重大な支障を生じます。その様なわけで、電気設備管理に携わるものとしては、日進月歩の機器に対する新しい知識を身につけるため、新刊書を読むことはもちろん、技術者の義務として一生涯学習を続ける心積りでです。

ところで電気の本は堅苦しいもので、仲々、学ぶのに骨のおれるものです。そこで先に述べた様に頭の切り替えに種々の図書を併せて読むことにしています。その中でも特に私は、幕末の激動の中を生きた志士達の伝記、小説が特に好きです。中でも坂本竜馬に関する本に興味があり、ずっと以前に読んだ司馬遼太郎著「竜馬がゆく」はまだ鮮烈に記憶に残っています。

秋は読書のシーズンといわれています。学生時代はどれだけ読書に時間を費やしても誰も文句はいわないでしょう。大学を出て職業につくと仕事や家庭の雑用に追われ、読みたくても読めないことが多い。大いに頑張って読書しよう。

● ● ● ● ● 読書の秋特集 ● ● ● ● ●

本はかけがえのない友達

法学研究科 博・前1年 西脇 應美

私は、読書家とはいえませんが、よい本に恵まれてきました。学部生時代は、読書よりも専ら友人達との対話が多かったのですが、自宅通学に変えてから、いつの間にか読書をするのが楽しみになっていました。私が専攻した英文学の講義で勧められた本のうち、印象に残るものをあげると、E. ブロンテ著『嵐が丘』は、心のすれ違いが招く不幸を描いたもので、程度の差こそあれ、人間関係に常在するテーマです。O. ワイルド著『ドリアン・グレイの肖像』は、表面の美しさと裏腹に心に醜いものを持った主人公が、罪を重ねる度にその肖像画が醜悪になって行くという奇想な展開で、人間の本質をあばいてゆく作品です。J. オースティンが21歳の時の作品、『高慢と偏見』は、同世代の皆さんのよき話し相手になってくれるでしょう。この種の読書は、人の感情を豊かにし、良識を養ってくれます。

次に、将来について考えていた時期に出会った石井猪太郎著『外交官の一生』は、第二次大戦終戦までの政府内部の様子や外交の記録です。これは、私の幼い頃の夢に再び火をつけ、勇気を与え、進路の大幅な変更を促した本です。将来を決める本があるかないか、私の場合にはこの幸運に恵まれたのです。

大学を卒業後、心身共に疲れ切っている時、仕事の同僚が勧めてくれた星野富弘著『風の旅』（詩集）とD. アンカ著『BASHAR』は、私の心を解放し、違ったものの見方や、心の持ち様を教えてくださいました。

読書では、時・空間・文化を越えて大文豪・大学者とさえ自由に対話し、時には彼らを一生の友人とすることもできるのです。

『風葬の教室』 山田詠美著

文学部国際文化学科 2年 清水 直

「映画を見る感じで本を読みたい」と思っている人はいませんか？私はそういった意図でこの本を挙げました。というのは、活字が大きく内容もわかりやすい、その上読み終ると得した気分になるからです。

テーマは何か？というと、人間です。あるときは落ち込んだり、またあるときはうきうきしながら人は人生を送ってきたと思います。そういった体験を通して自分なりに価値観を見つけ出すのではないのでしょうか？この本には今書いたことが書かれています。

次に作者山田詠美について触れます。芸能関係に詳しい人なら知っている筈です。黒人の年下の男性と結婚しているのです。でもそのことよりも、彼女が直木賞受賞作家の最年少記録を保持しているということもいいたいのです。そして「作家」というイメージからひどくかけ離れているというのも1つの特徴といえます。文章を書くよりも夜遊びが好きというところかな。作者のことを少しでもわかると、本が読みやすくなるのではないのでしょうか。

私の場合、雑誌でのインタビューとかで作者に興味を持ち、そして本を読むことが多いです。インタビューではよくその人のものの考え方がでてきますし、またそんなに時間がかからないので読む価値があると私は思っています。

最後になりますが、なぜ山田詠美がいいかというと、彼女には、彼女なりのハイ・センスを備えているからです。それを知りたければ、この本を一読すればいいでしょう。



情報の検索にパソコンを使う

データベース <その1>

今回から本学で採用しているオンライン・ネットワーク、CD-ROMなど、パソコンを使って検索できるデータベースについて紹介いたします。今のところ、学生諸君が自由に検索することはできませんが、利用申し込みをすれば、係員の指導のもとに利用することができます。

NACSIS-IR NATIONAL CENTER FOR SCIENCE INFORMATION SYSTEM INFORMATION RETREAVL SERVICE

1. 学術情報センター：旧東京大学文献情報センター
2. 各大学の所蔵目録を収録し、そのデータベースを国・公・私・短大、利用機関の教員、各図書館などが利用する。
3. 本学の学生が図書館で検索する場合は、当分のあいだ有料。
4. 主なデータベース

データベース名	データ件数	収録期間	対象分野	内 容
Harvard Business Review	2,500件	1927～	経営学	Harvard Business Review 誌の全文情報
SciSearch	307万件	1987～	自然科学	Science Citation Index 誌に対応する索引及び引用情報
Social SciSearch	53万件	1987～	社会科学	Social Sciences Citation Index 誌に対応する索引及び引用情報
A&H Search	48万件	1987～	人文科学	Arts&Humanities Citation Index 誌に対応する索引及び引用情報
学位論文索引データベース	49,500件	1984～	全分野	わが国の大学で授与される博士学位論文の索引情報
学会発表データベース 第一系～第八系	70,000件	1987～	各分野	各関連学会の全国大会・研究会の発表の概要情報
研究者ディレクトリ	13万件	1988年 5月現在	全分野	大学等の研究者の研究課題・発表論文等の情報
現行法令データベース	3,500件	最新版	法律	わが国の現行法令の全文情報
民間助成研究成果概要データベース	850件	1964～	全分野	民間助成財団等の研究助成金により行われた研究成果の概要情報
経済学文献索引データベース	8,000件	1990～	経済学	わが国の経済学分野の学術文献の書誌情報
学会予稿集電子ファイル	35,000件	1989～	全分野	わが国の学会の大会・研究会で刊行される予稿集記載の発表概要情報（全文は画像で提供）
JPMARC	102万件	1969～	全分野	日本国内で発行された図書の書誌情報
LCMARC (Books)	304万件	1968～	全分野	主として米国で発行された図書の書誌情報
LCMARC (Serials)	50万件	1973～	全分野	欧米雑誌の書誌情報
目録所在情報データベース (和図書)	書誌 53万件 所蔵 320万件	最新版	全分野	わが国の大学図書館等に所蔵される和図書の総合目録情報
目録所在情報データベース (洋図書)	書誌 109万件 所蔵 225万件	最新版	全分野	わが国の大学図書館等に所蔵される洋図書の総合目録情報
目録所在データベース (和雑誌)	書誌 6.5万件 所蔵 143万件	最新版	全分野	わが国の大学図書館等に所蔵される学術和雑誌の総合目録情報
目録所在情報データベース (洋雑誌)	書誌10.9万件 所蔵 87万件	最新版	全分野	わが国の大学図書館等に所蔵される学術洋雑誌の総合目録情報
アメリカン・センター図書館 総合目録データベース	6,300件	最新版	全分野	アメリカン・センター図書館6館が所蔵する図書の書誌、所蔵の総合目録情報
データベース・ディレクトリ	1,000件	1990年 4月現在	全分野	大学等で作成、検索サービスしているデータベースのディレクトリ

シリーズ レファレンスブックの紹介 (4)

今回は「人と機関」と題して人物・団体研究調査のレファレンス・ツールをご紹介します。

Q. 明治時代の詩人北村透谷についていろんな人が彼の人物像や作品について評論を出しているようですが、どんなものに乗っているのですか。

A. かれは、明治時代の有名な詩人ですので、多くの伝記が図書として出版されていますが、その他に雑誌・新聞等にも多く掲載されています。このようにいろんな文献に載っているある特定人物の評論を一度に調べることができるツールに次のようなものがあり、人物研究には大変役に立つものです。

(1) 日本人物文献目録 平凡社 1974

(請求番号281/03/19)

明治初年～昭和41年末までに刊行された図書、雑誌を対象に3万余名の伝記に関する文献を網羅的に収録した目録。

(2) 人物文献索引 国立国会図書館 1967～73

3分冊

(請求番号029/1/6-)

国立国会図書館所蔵の各種の日本語資料(図書、雑誌、紀要、新聞、年報月報類等)より伝記書をはじめ伝記関係記事を含む文献を収録し、次の3分冊に分れている。()内は収録期間。

(a) 人文編(昭和20～39年刊行分)

(b) 経済・社会編(明治以降～昭和43年刊行分)

(c) 法律・政治編(明治以降～昭和46年刊行分)

(3) 年刊人物文献目録 日外アソシエーツ 年刊

(請求番号280/31/2-) 5階事務室

これも上記同様の和文の人物文献目録で、現在本館では昭和56～61年版までを所蔵しており、2分冊(I. 日本人編、II. 外国人編)で発行されている。その他に、

日本件名図書目録 I. 人名・地名・団体名 日外アソシエーツ 1977/84～

(請求番号025/1/15-)

でも調べることができます。

Q. 日本バプテスト連盟の事業内容など調べたいのですが。

A. 公益法人あるいは公益事業を行う任意法人について調べるならば「全国各種団体名鑑(シバ、団体情報センター)(061/0/10-)」です。この資料は、団体の住所・電話番号だけでなく設立年月日、所管官公庁、目的、事業、刊行物があれば刊行物、取引銀行、年予算、会員、役員、事務局員、支部・下部・関連団体など、組織の大きな情報を得るには便利なツールです。上・下巻からなり、主題別の目次と団体名から引ける索引があります。

キリスト教の団体は下巻の宗教(キリスト教)で調べることができます。ちなみに、西南学院と縁の深い『日本バプテスト連盟』の事業内容は「…全国の教会、伝道所の宗教活動の援助…」となっていました。

Q. ノーベル賞基金を設立したノーベルは、何を発明した人なのか。また、彼の肖像画があれば見たい。

A. 人物事典を調べたいのだが、たくさんある辞書、事典の中から、いざどの事典を、というときに適切なものを示してくれるのが『西洋人物レファレンス事典』です。これは欧米各国の人物についての簡単な説明に加えて、各人が記載されている辞書・事典が、記述量、肖像画の有無とともに示されています。

また、歴史上の人物について調べるのによい事典には『世界伝記大事典』があります。これは「日本朝鮮中国編」「世界編」の2部で構成される18巻にわたる大人物事典です。各人についての詳細な説明とともに、関係した写真、図版、更に深い理解を求める人のために参考書欄など、ボリュームたっぷりの情報を得ることができます。

新着図書紹介(一部)

(平成3年10月31日現在)

新・日本の外交＝地球化時代の日本人の選択 (入江昭／中央公論社)
ストック経済を考える (野口悠紀雄／中央公論社)
失われた原始惑星＝太陽系形成期のドラマ (武田弘／中央公論社)
特許の基礎知識 (佐藤秀一／オーム社)
英語で読むアメリカのフェミニズム (藤枝濤子／創元社)
アメリカのM&A (J. Brooks／東洋経済新報社)
日本ファシズムと「国家改造論」 (小松和生／世界書院)
交通事故民事裁判例集第20巻 (ぎょうせい)
超伝導の謎 (菅原昌敬／森北出版)
老化・DNAのたくらみ (土居洋文)
セクシュアリティ (宮淑子／現代書館)
NHK アインシュタインロマン (NHK)
日本の賃金構造と賃金決定機構 (川野廣／関西大学出版部)
南極科学館 (国立極地研究所／古今書院)
シェイクスピア史劇の古戦場 (柏倉俊三／研究社出版)
いまソ連の知識人は何を考えているか (川崎陝／朝日新聞社)
改正会社法の解説 (北沢正啓／有斐閣)
外国人を悩ませる日本人の言語習慣に関する研究 (彭飛／和泉書院)
外国為替と貿易取引(香川尚道/法律文化社)
登校拒否の理解と学校対応＝本人・親・学校態勢・治療機関 (西君子／教育出版)
埋もれた江戸＝東大の地下の大名屋敷 (藤本強／平凡社)
実践 国際ビジネス Q & A (日本鋼管)
国際経営時代の法律武装 (野村総合研究所)
政治としての法 (D. ケアンズ)
生体の線計測法 (保志宏／てらぺいあ)
排除と差別のエスノメソドロジ－ (山田富秋／新曜社)
17・18世紀大旅行記叢書2／世界周航記 (岩波書店)

カルチャーギャップ＝帰国子女体験リポート (平形澄子、原田英子)
マーケティング英語に強くなる本 (PHP)
漫画の歴史 (清水勲／岩波新書)
在日外国人 (田中宏／岩波新書)
冷戦後 (船橋洋一／岩波新書)
最新金融法務読本 (金融財政事情研究会)
金融用語事典第3版 (東洋経済新報社)
社会主義ドイツの興亡＝ドイツ民主共和国史 (H. ウェーバー／日本経済評論社)
新しい保育 理論と実践 (田中敏明／ミネルヴァ書房)
新・乳児の発達と保育 (ミネルヴァ書房)
社会主義経済学通論＝社会主義経済的運行と発展 (谷書堂／上海人民)
香港・澳門(アモイ)地区経済地理 (吳郁文／新華出版社)
英文契約書の読み方 (小谷卓也)
私の不倶戴天の敵 (伸岡春樹)
世界の留学 (権藤与志夫)
やさしい入門 Level = COBOL 操作の基本とプログラム技法 (東京電機大学)
電子を操る、量子箱を創る (榑浩之／三田出版会)
クリスマス・イヴ (内館牧子／角川書店)
イギリス道德劇場 (鳥居忠信／リーベル出版)
熱帯林破壊と日本の木材貿易 (世界自然保護基金／築地書館)
民事保全法規新旧対照条文 (法曹会)
電気を発見した7人 (渡辺勇／岩波書店)
数学公式に強くなる (片山孝二／岩波書店)
シェイクスピアの七つの悲劇 (A. ホニグマン／透土社)
美食の社会史 (北山晴一／朝日新聞社)
教養のための天文・宇宙データブック (比田井昌英／東海大学出版会)
自由と自治と高校生活＝校則「日の丸・君が代」・自主活動 (森田俊男／労働旬報社)
民法総則 (田山輝明／成文堂)
地球環境保全概論 (谷山鉄郎／東京大学出版会)
ラディカル・ヒストリー＝ロシア史とイスラム史のフロンティア (山内昌之／中央公論社)

図書館の増改築順調に進む

鉄骨組み立て終わる

夏季休暇中に始まった図書館増改築の本格工事は、ほぼ予定どおり順調に進んでいます。

10月上旬に鉄骨組み立て工事が完了し、新しい建物部分の全容が想像できるようになりました。

現在、土間のコンクリート打ちが行われています。今後1階から7階までの躯体工事や平成4年1月からの外部仕上げなど約9か月の工事を経て、明年7月末には増築部分が完成する予定です。同8月の夏季休暇中、利用者が最も少ない時期に新館への移転を行い、定期試験が始まる9月に増築部分の利用を開始する予定です。

2号館との間の広場、掲示板付近、3号館との間の通路など、工事現場の周辺は非常に危険ですから、十分注意してください。

(10月25日記)

効率的な端末検索

端末で図書を効率的に、かつ、短時間で行う方法を紹介しておきます。

1. 頻度の高いキーワードは、レスポンスタイムが長くなったり、検索結果の件数が多くなるので、できる限り使用は避ける。

(例) ケイザイ、シャカイ、ニホン、セカイ、キョウイク、など

どうしても利用したいときは、第3、第2の項目で検索する。

2. 書名キーワードの項目は、できる限り3つとも使い切る。

3. 全集・大系・講座名が判れば、単行書名とは別に、もう一度、全集・大系・講座名等で検索してみる。

4. 館員の指導により、NDC（日本十進分類法）による分類・項目別に検索してみる。

その他、詳細な検索方法がありますので、目録検索を含め、不明な点があれば、気軽に係員にお尋ねください。

編 告

《研修・出張》

- ◎EDCセミナー（駐日EC委員会）6.13～14
香川大学 古庄司書出席
- ◎事務システム研修会（私立大学等情報処理連絡協議会） 7.22～24
静岡 伊藤課長補佐出席
- ◎私大図書館協会総大会・研究会 7.31～8.2
早稲田大学 堤次長、篠崎課長出席
- ◎私大図書館協会秋季西地区部会 10.4
大阪 品川係長、大羽司書出席
- ◎私大図書館協会西地区部会九州地区研究会 10.24 熊本工業大学
伊藤課長補佐、佐藤司書補、山本司書補出席

《研究会》

- ◎九州EC研究会 7.6 会場：学術研究所

研究報告

- (1) 『イタリア経済とEC』

鹿児島大学 皆村武一

- (2) 『ローマ条約競争規定と海運のコンソーシアム——一括適用除外問題を中心として』

長崎県立大学 松本 勇

編 集 後 記

「書物は人間の呪いである……人間にふりかかった最大の不幸は印刷の発明である」（英・ディズレーリ・政治家）。逆説的には、大量の情報の渦中で、真理をみきわめ、幸福の欲求を満たすためには、有益な図書を読むということなのか。有益な図書とはなにか。さらに読書を通じて考えてみることにする。（J）